

九条の会・尾張旭 ニュース

第 38 号

2012年9月27日
「九条の会・尾張旭」発行
(事務局 54-6279)

8月25日 第9回「戦争体験を聞く会」を開催 150人が参加



会場の様子



若者も会場発言

10月27日(土)午後 学習と話し合いのつどい

「橋下徹現象」をどう見るか？ どう対処するか？」

今回のニュースに10月27日の「学習と話し合いのつどい」のチラシを2枚ずつ挟ませていただきました。関心のある方や知り合いの方に渡すなど、お誘いに活用していただければ幸いです。

憲法9条を変える。集団的

自衛権行使は当たり前…。

橋下徹氏の危険な言動が連日マスコミの注目をあび、多くの人々が拍手喝采し、衆院選では「日本維新の会」大躍進が確実と言われています。

こうした「橋下徹氏をめぐる現象(ハシズム)」をどう見たら良いか？そしてどう対処していったら良いか？

「九条の会・尾張旭」はこの問題を巡って、下記のように「学習と話し合いのつどい」を持ちます。

講師は分かりやすいお話に定評のある見崎さん。

参加者による話し合いの時間もタップリとりました。

ぜひご参加下さい。



日時：10月27日(土)午後1時30分～
会場：中央公民館3階「会議室3」
講師：見崎 徳弘さん

(あいち九条の会代表世話人・元高校教師)

8月25日「戦争体験を聞く会」で 150人が映画と監督の話聞く

会場発言も多数

「九条の会・尾張旭」は8月25日(土)午後、中央公民館で第9回「戦争体験を聞く会」を開催、猛暑にもかかわらず150人の参加で会場は一杯になりました。

証言記録映画「名古屋空襲を語る」今を生きる人へ」を製作した森零監督の

[投稿] 戦争体験を聞く会 「名古屋空襲を語る」集いに参加して

緑町緑ヶ丘 A

『燃え盛る名古屋城、暗闇のなかを逃げまわり、防空壕へ飛び込む人々、恐怖のなかで一晩過ごし、自宅へ戻る道端には死体』

がごろごろ、自宅へ着い
は前年の12月13日から始
まり、敗戦の日まで続き
ました。8カ月で死者8
千人、負傷者は1万人、

分の空襲体験の発言や若い
方からの質問など多数の会
場発言があり、とても活発
な集まりとなりました。

名古屋での本格的空襲
被害戸数は13万を超え
ました。

この名古屋空襲の実態
を生々しく語ったドキュ
メンタリー映画「名古屋

名古屋空襲の証言映画鑑賞 森零監督が講演

尾張旭 戦争体験を聞く会



九条の会・尾張旭などが主催する「第9回戦争体験を聞く会」が二十五日、尾張旭市中央公民館であった。集まった百五十人が、映画監督森零さん「写真」の作品「名古屋空襲を語る」今を生きる人へ」を鑑賞し、森さんから話を聞いた。

森さんは、名古屋空襲を知る七十一人の体験談を撮影。映画では、防空壕で命からがら生き延びた女性や、空襲と同時に三河大地震に襲われた男性など、悲惨な記憶が次から次へと証言されている。

森さんは「名古屋が焼け野原になったように、現在もいろんな国で起きている。そのことを思うと、力尽きるまで平和や文化保存につながる活動をしなくてはならない」と語った。(水越直哉)

中日新聞8月26日

空襲を語る」を見ました。主催は「九条の会尾張旭」です。

はじめに森零監督から、この映画をつくるきつかけや、「私たちには語り継ぐ義務がある」と、予想以上に多くの方が証言してくれたこと、などの話がありました。

証言者は当時小学生、青年までの71人で、67年前の体験を、まるで最近の出来事のように語ってくれました。尾張旭市の6人の方も証言されています。

空襲は終戦まで50回ほど続きましたが、証言も時間を追って語られました。

空襲が始まった12月には東南海地震が、翌年1

月は三河地震が発生し、死傷者数千人の大震災となりましたが、市民は空襲と大震災の二重の恐怖のなかにいたことや、夜間の焼夷弾による無差別爆撃に逃げ回りながらもその光景は花火よりもきれいだっただことなどを証言しています。

数千人の死者と数万戸の家屋被害を受けた3月と5月のすさまじい空襲、このとき名古屋城も焼失、三菱発動機と愛知時計への集中的空襲の状況など、強烈な証言の連続でした。

映画が終わって参加者の意見交換の時間になりました。

ご自分の体験を語り、戦争の愚かさや、今

も、世界各地で戦争状態や紛争にあること、日本においても戦争につながるかもしれない危険な動きがあること等を指摘し、自分には何ができるのかと問いかけたり、命令を受けて人が人を殺す戦争をなんとかしてもなくしたい、など何人の方が、

ご意見を出されました。

空襲が始まったとき、私は2歳でしたから、何も覚えていません。住ま

いは名古屋駅からお城の方へ1^キほどでしたから、冒頭の一文のように、焼け出されて、田舎へ引越したようです。母は、名古屋城の天守閣が焼け落ちるのを見て、日本はもうおしまいだと思ったそうです。

領土問題や北朝鮮との関係で、軍事的対応を強めようとする動きや、憲法九条を改悪しようという勢力が台頭してききました。

戦争という“愚かな行為”を再び繰り返すことのないように、ふだんから、その芽につながるような動きには細心の注意が必要です。



参加者による活発な意見交換

[投稿]

私の戦争体験

城山町

B

(大正13年4月生)

「お前らは消耗品だ」
生まれ育ったのは、名古屋市中区。鶴舞公園の近くです。7人兄弟で、三番目の男。2人の兄は既に兵隊に取られていました。

昭和19年4月に、今でいう工業高校の機械科の教員になって、同時に徴兵検査を受けました。目が悪かったので、第一乙種合格。8カ月後の12月15日に和歌山県の紀ノ川河口の兵舎(旧紡績工場)に現役で入隊しました。

と演説しましたが、そのころ僕は「人生は20歳まで」と思っていましたので、特になんとも思いませんでした。同級生で、一緒に徴兵検査を受けた友人が、既に9月に入隊してしまいました。軍隊は少しでも早く入隊している方が偉いんで、その友人は「古兵殿」でした。

ただ中隊事務所に集合が命ぜられ、30人ぐらいが事務所の床に坐った。隊長が来て「フィリピンのレイテ島が危ない。レイテ島に、特攻隊員として行って欲しい」と涙を流しながら訴える。その後個人面談があり、係員の前に立つ。「お前は三男坊で文句なし」と言われ、即特攻隊員に決定です。

100人ほどの新兵を迎えた軍人が「お前らは消耗品だ。命は自分が預かる」

海上輸送特攻隊員に
ある日、幹部候補要員

その日から、他からも集められた40人ぐらいの者が塀の中の兵舎に移され、各種の予防注射を打たれ、点呼も寝たまま。菊の紋章のある恩賜のタバコに始まり、各種菓子、チョコレートまで与えられ、特別扱い。そのかわり、外部の者のとの接触は禁じられた。親にも特攻のことは秘密だった。

しかし、上官の中に僕に良くしてくれる人がいて、僕が怪我をしたことにして家に連絡をしてくれて、姉と弟が面会にきてくれた。その時、上官の下宿先の部屋で、冬なのに夏の軍服で(それによつて行き先を伝える)



米軍の艦砲射撃で炎上する
レイテ島の日本軍基地

会うことが出来た。

また、普通の兵隊は風呂などには入れなかったが、その上官が風呂に連れて行ってくれたことがあり、上官ばかりの中、小さくなって風呂に入ったこともありました。

「帰還するに及ばず」・・・

台湾へ

我々の隊は「船舶海上輸送特攻隊暁第六震海隊」である。

「レイテ島に特攻隊として食料や弾薬を届け、後は現地の隊に融合して戦い、帰還するに及ばず」との命令である。

先ず向かったのは、当時日本の領土だった台湾の一番北のキールンという港。

隊員には全国から集め

られた漁師が多かった。

特攻隊が使う上陸用舟艇も、徴収した漁船が多かった。漁船の方が速度が速くて都合がよかった。近海に出ると、潜水艦が浮き上がってきて、間もなくバンバーンと大砲を撃ってくる。

当時はレイテ島の周辺はアメリカの軍艦で包囲されていて行けるはずがない。それが分かっていてレイテ島に行けという人間は消耗品だった。それを変だと思ひもしなかった。中国への侵略が始まったから、日本は軍事の国になり、忠君愛国。中学校でも、銃を持って突撃の訓練ばかりしていたから。

いかた 筏に水や食料をくくり

つけ、舟がやられても行けるように舟に乗せた。

レイテ島奪還される

いざ出発という2月の

始め、そのレイテ島がア

メリカ軍に奪還され、

「レイテ島の特攻隊」と

いう最初の目標はなくなっ

てしまったので、台湾の

高雄に移動した。そこへ

フィリッピンからアメリ

カの爆撃機が飛んできて、

一週間の間毎日猛烈に爆

弾を投下していった。

海岸に逃げて、海岸の

山に穴を掘って、その中に隠れた。敵に見つかる

と、反対方向へ逃げて隠

れた。機銃掃射でやられ

た仲間もいた。

6月になって沖繩戦が

激しくなり、震海隊も第

四・第五と沖繩へ出て行っ

た。次は我が第六である。

ところが、その沖繩もア

メリカ軍に制圧されてし

まい、行く必要はなくなっ

た。沖繩へ行った戦友た

ちは、その後全員の行方

が分からないことを思う

と、紙一重の差だった。

台湾で終戦

終戦と同時に、蒋介石の軍隊が台湾に逃げてきました。自分たちは武装



陸上元帥 再上陸 奪還 レイテ島の米軍マッカーサー

解除されて、中国の軍隊と同じ敷地で隣り合わせに暮らしていた。中国軍は日本の武器をみんな貰って、嬉しそうに武器の扱いを聞いてきたりした。

蒋介石の軍隊は威張っていた。その中でも特に韓国人はものすごく威張っていた。在留邦人が襲われ、店や財産を奪われ大変だった。「日本語をしゃべるな」「話をするのも北京語でやれ」と言われていた。

店を取られ、小屋を作つて食べ物を作つて売る商売をしていた人たちは丸腰の僕達に、助けてくれ、泊まって行ってくれと大歓迎してくれたりした。

僕達も働かねばならず、僕はたまたま日本人経営



キールンの炭鉱で

の船舶修理の会社に就職できた。上官にいうと、「お前一人行くのはいかん」というので、仲間を20人くらい募つて、兵舎を分解して、工場の敷地に建物を建ててそこで暮らした。他の人はキールンの炭鉱夫になるか、農作物を作つて売るかの仕事をした。

食べ物は、沈没した船から引き上げた潮浸しになつてふくらんだ外米（細長い米）などであったが、食べる物には困ら

なかった。時々海で魚を釣つて食べた事もした。台湾は一年中暑くつて、半袖シャツでも暑いのに、現地の人には毛糸のマントを着て、はだして歩いていた。

駆逐艦が迎えに

昭和20年12月26日、迎えにきてくれた駆逐艦に乗つて、高雄を出発した。

それは兵隊だけで、在留邦人は乗せなかった。

日本から来るときは、敵の目を逃れながらジグザグに進み、かなりの日数がかかったが、帰りは早かった。

生きて帰つたのだ。

その時もらった書類だが、軍隊手帳の最後のページがコピーされており、

その後、手帳にはないことが同じ筆跡で付け加えてある。

「昭和20年12月26日高雄出帆。昭和21年1月2日に大竹港上陸。同日命上等兵に昇進。同月3日除隊。」そしてそれが拡大コピーされている。

終戦後4ヶ月以上たつて、昇進、除隊したのだ。

名古屋の家へ

帰りの船に乗つたとき、「東京でおにぎりが10円で売っている」と聞くと、それまで戦友と何でも分け合つて食べてきたのに、皆自分のものは隠すようになった。みんな個人主義になつてしまった。

それでも友人の一人が、「新城に來い來い」と言つ



名古屋も焼け野原に・・・

てくれたが、まずは名古屋の家に行ってみた。

家のあった辺りはすべて焼け野原で、ガレキの山だった。小さい頃にアサガオを植えた鉢が転がっていたので、「ああ、ここが家かなあ」と。

どうしようかなあと思ってたはずでいたら、近所の人が、「甲三さんでないか、ちょっと家へ寄ってくれ」というのでついて行ったら、一軒おいて隣の人が、防空壕の中に住んでおった。そこで、

家のものは、母親の在所の阿原という所に暮らしていて、みんな無事だと教えてくれた。

それで名鉄電車に乗ることになって、駅へ行くと姉がいて、「生きとつたのか」とびっくりして家まで連れて行ってくれた。

幽霊じゃない

電車は新川というところで下りて歩いて行つた。

家族は最初母の在所の物置で暮らしていたが、終戦になって徴用で来ていた人が帰っていった空き家に移っていた。1月3日か4日に、叔父が弘法様か何かに僕のことを聞いたら、「西の雲が晴れたら帰ってくる」と言

われて、話をしているとこだった。

みんなビツクリして、始めは幽霊じゃないかと思われていた。一晚眠つて目を覚ますと、枕元で妹達が大きな声で話をしている。「幽霊じゃない。本当の兄さんだ」と話していた。

兄弟7人全員そろつた

その時、長兄はまだ帰つていなかった。

長兄は中国の南の方で獣医をしており、馬の診療をしていた。インパール作戦に参加する準備をしていたときに戦争が終わったそうだ。家に伝来の刀の中で、一番いいやつを軍刀に仕立てて持つていつていたが、戦争が

終わったときに敵にそれを献上してきた。

横須賀に着いたときにコレラが発生して、おさまるまで留め置かれるという連絡が来た。

それも解除になって、名古屋駅に迎えにいくと満員の電車の窓から飛び降りてきた人がいて、それが兄貴だった。

2つ上の次男は、衛生兵で岐阜に勤務していたので、僕より早くに帰っていた。7人兄弟全員無事でそろつた。

その後

名古屋の家には結局帰らなかった。

名古屋の味鋺に住んでいたが、西山町に移り、それからここ城山町にやつ

てきた。

あれから67年経ったが、何度も亡くなった戦友の夢を見る。戦争は全く不幸な、人類の愚かな行為である。

僕によくしてくれた上官とは、その後も付き合いがあり、僕より6歳上で、94歳の今も元気で年賀状をくれます。

今気がかりなこと

尖閣諸島、竹島の問題が気になっている。

日本が戦争放棄したけれど、そいつを逆手に取って、韓国の大統領も、中国の首相も、なんか我々を侮辱しているような気がする。

日本大使の車の国旗を取ったのに、器物損壊・

窃盗罪、それだけで終わり。そんなバカなことはない。

中国も世論を恐れ逮捕しない。中国もおしまいだ。民衆の暴動が起きると、中国はバラバラになるねえ。

(投稿して頂いた原

稿に、聞き書きして

付け足し、まとめました。

文責 筒井春江)

おことわり

(1)、(2)と連載してきました「4・22安齋育郎さん講演会の概要」の最終回(3)は、紙面編集の都合で今回のニュースに掲載できませんでした。

次号に掲載致しますので、悪しからずご了承ください。

「九条の会・尾張旭」会員からの 平和のメッセージ

時間は世界中の誰にでも平等にあります。
生まれた時から、限りある命の中で、「幸せ」を感じられる時を、どれだけ持つことができるか・・・。

世界中の誰もが、ひとつでも多くの「幸せ」を感じられる、争いのない、不安のない「平和」な毎を送りたい。

そのために、私達は生きている。

(東栄町 C さん)



非核 千羽鶴に願いを

核兵器のない平和な世界を祈るため、尾張旭市の小中学生が9000羽の千羽鶴を作り、代表の中学生と水野義術市長ら8人が21、22日、広島市の平和記念公園を訪れ、「原爆の子の像」にささげた。
尾張旭市は昨年3月、非核平和都市を宣言。千羽鶴は小学校高学年児童と中学生が平分けして作った。市
民から募った平和メッセージ制作も続いた。代表の中学生は、いずれも3年の鈴木啓太郎(旭中)と山田一貴君(東中)、柴田美穂さん(西中)の3人。
制作者から体験談も聞かされた。「戦争、原爆の悲惨さを感じた。来ていない空襲にも伝えたい」と話した。(本紙記者)

中日新聞 8月24日

*昨年3月「非核平和都市」を宣言した尾張旭市は、市内中学校代表が広島を訪れ被爆者のお話を聞くなどの取組みを毎年行っています。今年は市民の「平和のメッセージ」も募集。会員の方からの素晴らしいメッセージをご紹介させていただきました。



[投稿]

7・16さよなら原発10万人集会

行ってききました

平子町 D

朝8時に出かけて新幹線です。

朝8時に出かけて新幹線
ので一つ手前、渋谷で降
りて歩く。それでも駅降
りたら、京都から来た集
団にも出くわし、代々木
公園へ行く道もまるでデ
モ行進です。

私はこの辺まで移動しました

17万人が集まったそう
ですが、納得の数字です。
(警察発表7万5千!
馬鹿じゃないの! って感
じですね (MOV)!)
公園へ入って150mも進
んだらもう身動き取れず。
中央舞台の見える所へ行
こうにも全く動かず。満
員電車の雰囲気そのもの

私は何とか音が聞こえ
る所、舞台が見える場所
へ行きたいとの一心から、
石崖を上り、人を掻き分
け、我慢の連続、ともか
くすごい人・人・人・人・
人

当日は心地よい風が吹
き、木陰にいたので、熱
中症にはならず良かった
ですが、すごい熱気です。
舞台前に座った人は酸欠
状態だったのでは??

国民の意見を聞かず、
ごり押しする国に対して
怒る人、原発なくしたい
人がこんなに沢山いる事

が分り、すごく感動しま
した。

北海道から沖縄まで参
加したそうです。福島の方
も目立っていましたね!!

デモも沿道からすごい
拍手してくれるし、ツイッ
ターで、赤旗がでっかい
写真の号外を出したら
いい。私設給水所を開設
「タダです」と情報が早
い! 私も「よしや!」と
気合入れたりして楽しい!

又、杖歩行のお爺ちゃ
んがデモに参加したり、
80を超えている様なお婆
ちゃんも参加したり・
(勿論長くは歩けず真つ
赤な顔して直ぐにリタイ
ヤし、歩道に座り込みま
した。)
でもすごいじゃないで
すか!! 自分の意思を

示すには充分過ぎる行動だと、私は婆ちゃんの思いが伝わり胸が熱くなりました！。

呼びかけ人の人たちの話も、この爺ちゃん婆ちゃんと同じ気持ちです。

鎌田慧さん「780万の署名を無視した政府にNOを突きつけましょう！秋にも又大集会を開きまゝす」

坂本龍一さん「電気のために、子供の命を危険にさらすべきではない。福島の後黙っているのは野蛮だ！」
内橋克人さん「『さよなら原発』の声はゆがんだ社会を正す確かな力。声を上げ続けなくてはならない！」

大江健三郎さん「私達が署名を提出した翌日再稼動を決めました。政府に侮辱された感じます。政府のもくろみ打破の為にしっかりやり続けましょう！」

落合恵子さん「原発はいりませ〜〜ん」

「コンクリートから人へと行っていた人が、命より原発を選んだ。私達の守るべきは命・

田・畑であり、海であり、守るべき物は戦い取りましよう！」「戦う事を躊躇してはいけません！人間の誇りにしましろう！」

澤地久枝さんは「今は未来の為に戦いです！」

「汚染された故郷を次世代に渡してはいけな

い！」「今すぐには無理だけど、命を大事にする社会を作り、次世代に渡さなければならぬ！」「生きていて良かったという国にする！」「民心が届かない国は民主主義国家ではない！民主主義の国を作らなければ・・・」

「意見を言う事をはばかってはいけない！」「子供達のためにもがんばろー！」

瀬戸内寂聴さん「5月で90歳になりました。今原発が止められるか分からないが、それでも集まり、力をあわせ言い続けましよう」

7人の方のお話は、先を見据え、「より一層大

きな戦いにしましう！皆さん声を上げ続けましよう！」「黙っていては何も変わらない、皆さんもその覚悟をしてくださいね！」と言われたように、私も年です（66歳）が頑張りたいと思います。

50万とか100万の人が集まる様になったら、国も少しは言う事を聞かかも？

「沈黙は金」と言われた時もありましたが、今は「みんなで声を上げよう！」という新しい時代が始まり、その先に見える、原発ゼロを間違いない実現させる力がある事を予感させる大集会でした。今度は若い人を沢山送り出したいです。

[投稿]

「反原発デモ」に初参加

霞ヶ丘町 E

17万人が参加した東京代々木公園の反原発集会の一日前、名古屋久屋広場でおこなわれた反原発デモに初めて参加しました。

日曜日、たまたま予定

があきました。9歳になる孫と一緒に電車に乗って栄へ。洪る孫に「歩い

たあとは、アイスを食べよう」と奥の手をちらつかせながら。

広場には、若者、年齢者、子ども、様々な年齢層の人々が集まってきます。



7.15デモには尾張旭から26名が参加
(7.16中日新聞：尾張旭の方の顔も...)

派手なパフォーマンスのいでたちをしている人、コウモリ傘にアピールを書いてさしている人、手に自作のプラカード、上り旗を掲げ、人々の顔には悲壮感はありません。むしろ楽しんでる感じ

です。時間がたつうちにたくさん集まってきました。突然声を掛けられました

。「みかさん！」びっくりして振り返ると、以前勤めていた会社の後輩が笑顔で立っています。

手には長い竿の先に「反原発」の旗。「あら、あなたどうして？」とびつ

くする私に彼女は笑顔で答えました。「だって、黙っていられないじゃないですか。自分たちのことなんです。無視し続けられてはたまったものじゃない。じっとしてられないからこうやって仲間といっしょに行動します。」と。

以前は世の中のことに余り関心を持っていない

ような彼女が、こうして行動している。とてもうれしい気持ちになりました。デモ参加者の多くが

初体験の人とのこと。一市民が「だまっていられない」と立ち上がったという事実。静かな市民の意思表示が必ず日本を動かすのだと、確信を持ってました。

4列に並んでデモ行進が始まります。「原発いらない」「子どもを守るう」「再稼働反対」シュプレヒコールが続きます。

途中「朝日新聞」の腕章をつけた記者に声を掛けられました。インタビューされたので、翌日の新聞を楽しみに探しました。

でも報道されたのはほんの数行。でもこのデモの

様子を無視することはできなかつたのね、とほくそ笑みました。

「脱原発の人うごめきて蓮開く」私たちの未来はわたしたちで決めよう。

私たちにできることは何かをしつかり考えて行きたいものです。

岳交差点北東角で、時間は午後6時から8時です。皆さんもぜひ参加して、

名古屋で千人の集会をやりましょう。

反原発集会参加体験談

[投稿]

渋川町 F

600人、850人、500人、400人、500人、300人。

これは、7月27日から8月31日まで毎週金曜夜行われた、関西電力東海支社前の抗議集会の参加者数です。



関西電力東海支社前での抗議集会

5月5日から続いた原発0状態は、7月、関西電力・大飯原発の再稼働により終わりました。以来、反原発連合の呼びかけで開かれるこの集会は、最初は数十人の参加で始まったそうです。一時は千人も超すかと思われたのですが、お盆を是ら少し人数が減りました。しかし、参加者はあきらめることなく、「再稼働反対」「原発0」を叫び続けています。小さな子どもを連れのお母さん、

普通のおじさん、友だちと参加したおばあちゃんグループ・・・。60年・70年安保を知らない私ですが、おそらくその光景とは全く違っていた。「市民」の抗議活動となつていえると思います。先日は若い女性がシュプレヒコールをあげていました。この活動は、官邸前をはじめ全国で取り組まれていきます。また、並行して月一回のデモ行進も行われていきます。抗議集会の場所は、高

(注意事項)

1. 2時間シュプレヒコールしているとのどが渴きます。お茶などお持ちになつて下さい。
2. 8時に終わつて帰ると遅くなりますので、晩ごはんは早めにすませてきて下さい。
3. プラカード、鳴り物などがあると楽しく参加できます。
4. 2時間の参加は疲れるので、前半1時間と後半1時間とかの参加も良いと思います。

[投稿] 1970年の堀口大學の詩とその先見性
北本地ヶ原町 G

傘寿を超える先輩で、東海メールクワイアーの現役団員でもある畏友に誘われて、「清水脩 作品集」を演目とする、定期演奏会（6/24）に、

この詩は、昭和45年（1970）に作られ、翌46年（1971）のサンケイ新聞元旦号に掲載されたものである。

分ち合え
譲り合え
そして武器を捨てよ
人間よ

君はいま立っている
存亡の岐れ目に
原爆をふところに
滅亡の怖れにわななきながら

たまたまでかけた。そのプログラム解説の中に、堀口大學（1892-1982）が1970年（78歳のとき）に、以下のような詩を詠んでいたことを偶然に「発見」した。

私事にわたるが、筆者も半世紀を越えるその昔、学生時代の男声合唱団で唱和したことがある、組曲「月光とピエロ」（作曲：堀口大學、作曲：清水脩）の名演奏に耳を傾けながら、大學の詩に幾度か目を通した。

君は原子炉に
太陽を飼いならした
君は見た 月の裏側
表側には降り立った
石までも持つて帰った
君は科学の手で
神を殺すことが出来た
おかげで君が頼れるのは
君以外にはなくなった

信じられない自分自身に
おそれわななきながら・・・
人間よ
分ち合え
譲り合え
そして武器を捨てよ
いまがその決意の時だ



堀口 大學

『新春 人間に』

堀口大學（78）

君はいま立っている
二百万年の進化*の先端
宇宙の断崖に

*：ホモサピエンス（新人）
の出現（15万年前）に遙
か先立つ、ホモハビリ

ス(原人)以降の進化

「註」現在停止している最古参の敦賀原発が、大阪万博に合わせて始動したのが、1970年である。

さらに、福島原発災害で最初に水素爆発した一号機が始動したのが

1971年である。

まさに、70年代初頭は国を挙げて、原子力時代に突入しようとしていた時期でもあった。

また、この時期は、對抗する米ソを軸として、「宇宙開発」が本格的に始められた時代とも重なっている。

筆者は、前者の「原子力の平和利用」は、当初からいかさまだと思っ

ていたが、後者(「宇宙開発」)については迂闊にも、その危険性を十分見抜く力をもたず、

“月の石”の分析研究でNASAが募集したポストドク(博士研究員)の枠で、アメリカ留学(1971・1973)をした。

慧眼をもって時勢の危険性を当初から、見抜いていた堀口大學に、もしこの渡米の是非を相談する機会があった

としたら、彼は何と助言したであろうかと思

うと、冷や汗が出る思いである。

また、ごく最近「原子力基本法」と「宇宙航空研究開発機構(JAXA)」の設置法(JAXA法)が、相次いで改悪され、

平和目的に限定されてきたはずの「原子力開発」と「宇宙開発」に、憲法9条にも抵触し、きな臭い「国の安全保障に資する」という、危険

な文言が敢えて挿入された。

あの当時にあつて、人間の浅知恵に、鋭い警鐘を鳴らしていた堀口大學は、昨今の原発災害の可能性をすでに予見していたような気さえする。

さらに、「国の安全保障に資する」道は、もう一つの大學が発した警句、「そして武器を捨てよ」に、真つ向から反している!

【稿】私を引き揚げ体験(16)

戦争にほんろうされた家族の物語り

南新町 H

シベリアの兄から

ハガキが・・・

手紙が来た。兄からのハガキが同封されていた。

ソ連参戦のとき、ソ連と朝鮮と中国との国境に

一九四九年(S二四年)長崎の母方の従兄弟から

ソ連で元気である、という簡単なものだったが、

てその辺りは激戦だったと聞いていたので帰って

こないかも知れないと半分あきらめていた私たち家族にとって、大変な朗報だった。

兄が帰って来た

冬も近くなつて、舞鶴に帰って来たと、知らせがあつた。その頃はソ連で洗脳されて、赤くなつて帰ってくる、とやかましく宣伝されていた。

役場からはすぐ迎えに行くようにいわれたが、



舞鶴港に復員兵を乗せた舟が到着

舞鶴まで行くお金がない、というと役場でお金を貸してくれた。誰が言い出したのか、父一人迎えにやるのは心もとない、敏子ついてゆけ、ということになった。

父と二人、舞鶴に着いて、すぐ兄たちが収容されている所を見にいった。金網で隔てられて会うこともできない。出迎えの家族のための宿泊施設はだだっぴろく仕切りもない、寒々とした部屋だった。

手紙

復員局の役人がいて、お兄さんに手紙を書きなさい、という。

「一度安乗あのりに帰って来てください。お母さんが

待っています」そんな内容の手紙を役人に渡す。が返事を持ってこない。そしてまた手紙を書くように勧める。同じような手紙を書いて役人に渡すが返事がない。

私はせつせと手紙を書いた。とにかく帰って来てください、ゴチャゴチャ書いたが、要するにこれだけのこと。東京に行つて共産党に入党されては困る、というのが本音だった。四、五日してようやく兄は金網の向こうから出て来た。三重県方面に帰る元兵隊さん七、八人と復員局の役人と夜行列車に乗った。

返事を握り潰した役人
私は最初に聞いた。

「どうして返事をくれなかつたの？」

兄は私に毎日返事を書いたという。役人が返事を握り潰したのだ。役人に対して不信任が募った。

「どうして『アカ』になつたの？」「貧乏人が苦しまなくてもいいようにするためだよ」

ならいいことじゃあないか！どうして？どうして？と聞く私に兄は分かりやすく説明してくれた。なんだか怖いもののように思っていたアカは、本当は私たちの味方なんだ、ということが、いつもお金に追われ貧しく暮らしていた私の胸にスツと落ちて行った。

舞鶴から一緒に三重県に帰った七、八人の元兵

隊さんの中で家族が迎えに来ていたのは兄だけだった。

村がお金を貸してくれたのも、役人が兄の返事を握り潰して東京に行かせないようにしたのも、みんな国の方針だったのだろう。

村に帰って

無理やり連れ帰っても村に兄の仕事はなかった。父の手伝いをしたり、親戚の家の薪割りをしたりする兄の姿を見ているのは辛かった。

三ヶ月も経つただろうか、私は父母と相談して兄に、町へ出ることをすすめ、兄は町に出た。

(終)

終わりまで読んでいた。だいて有難うございます。

私が旧満州の避難行だ

けでなく、日本に帰ってからの生活まで知っていた。ただきたかったのは、一つには、居場所がなくて、日本を離れた者には帰る場所もなく、無理やり居

着いた所でも、苦労を重ねて生きてきたということとです。

敗戦時、日本政府は外地にいる者はその土地で生活すべしと、棄民政策をとったことは知っていました。が、数年前に読ん

だ本に、ソ連崩壊後のロシアが暴露した「機密文書」一九四五年八月九日ソ連参戦と同時に日本の

参謀本部から関東軍司令部に送られた文書が載っ

ていて、驚くより呆れてしまいました。

それには「内地ニ於ケ

ル食料事情及思想経済事情ヨリ考フルニ規定方針通、大陸方面ニ於テ八在留邦人及武装解除後ノ軍人ハソ連ノ庇護下ニ朝鮮

ニ土着セシメテ生活ヲ営

ム如クソ連側ニ依頼スル

ヲ可トス」と書かれてい

たということです。(「お

ばあちゃんの満州つ子日記」・永井瑞江著より)

軍隊は他国の民衆を殺

戮するだけでなく、もつ

と酷いことに自国の民衆

をも棄てるだけでなく、

相手国に売り払ってしま

うものなのです。これは

よく覚えておかなければ

ならないと思います。

二つ目は、どんなにいい法律が出来ても、勉強しなればわからない、

その法律を喜びとし、自

分の側に引き寄せて、よりよい生活を築くことも出来ない、ということを経験から学びました。

世界に誇れる9条をも

つ日本。でもその9条が

今どうされようとしている

のか、どう守りどう生

かしていくのか、みんな

で話し合い、みんなで勉

強して一人ひとりが、そ

れぞれの立場でそれぞれ

が出来ることをやってい

きたい、やって行きますよ

う、とお呼びかけして、

私の体験談を終わらせて

いただきます。

長い間ありがとうございました。

【投稿】 尖閣、憲法、橋下維新… ご紹介「私はこう考える」

東 栄 町 I

「愛国心」は危険！

大橋巨泉さん

週刊現代 10月6日号

「今週の遺言」より
自民党の総裁選挙に出そ
ろった5人は、全員「憲法
改正」「集団的自衛権」を
掲げている。

これは「一番人気」が予
想される橋下徹大阪市長も
同じようだ。民主党の代表
選候補も、赤松広隆を除く
と、同じ穴のムジナだろう。
もうじき死んでしまうポ

争の怖さ、悲惨さを声に出
していたい。

たとえばこれら「候補者」

たちは、間違いなくアメリ
カ追随、そして中国や韓国
には強腰外交路線を取るだ
ろう。

竹島や尖閣諸島では一歩
も引かず、国民の愛国感情
をあおつて、人気を取ろう
とするのは目に見えている。
しかし考えて欲しいのは、
相手国の政治家も同じ手段
に出ることだ。現在の中国

心ないアメリカ人がネッ
トで流した「ムハンマドを
中傷する」ビデオの結果を
見るといい。リビアのベン
ガジで、アメリカの駐リビ
ア大使ら4人が、暴徒に殺
害された。

ネット時代の今は、こう
した挑発は一瞬にして世界
を廻る。

宗教や愛国心がからむと、
正論や理性は飛んでいつて
しまい易い。

そして陰でほくそ笑んで
いるのは、いつも扇動者で
ある。

尖閣問題、石原知

事賞賛はおかしい

孫崎 享 元外務省国際情
報局長、元防衛大学教授

(中日新聞9月12日)

尖閣問題は野田政権の問



題という
よりもナ
シヨナリ
ズムの問
題だ。領

土問題に手をつけると国民
感情が燃え上がる。

野田さんの責任より石原
東京都知事だ。最初に尖閣
諸島購入を表明し、ナシヨ
ナリズムが動くボタンを押
した。火種をつくったわけ
だ。

韓国の李明博大統領は自
分の人気を高めるために竹
島に上陸したと言われている
が、石原さんも同じじゃ
ないか。石原さんをヒーロー
扱いするのはおかしい。

理性を持って石原さんを
止める道は国有化しかなかつ
た。

しかし、日本側は中国側



クらの世
代だが、
せめて息
のあるう
ちは、戦

争の怖さ、悲惨さを声に出
していたい。
たとえばこれら「候補者」
たちは、間違いなくアメリ
カ追随、そして中国や韓国
には強腰外交路線を取るだ
ろう。
竹島や尖閣諸島では一歩
も引かず、国民の愛国感情
をあおつて、人気を取ろう
とするのは目に見えている。
しかし考えて欲しいのは、
相手国の政治家も同じ手段
に出ることだ。現在の中国
各地での目に余る抗議行動
を見ればわかる。これは19
世紀、20世紀で多くの戦争
の引き金になった対立感情
である。

に対して、紛争をエスカレートするような行動は控えるべきだ。領土問題解決の国際的な知恵の一つは、係争地において、お互いに行動を慎重にするということだ。

一般の国民やジャーナリズムは、政治家が領土問題を使って利益を得るようなことを許さない、という空気をつくる必要がある。

反日デモ

暴力行為は許されない

五十嵐 仁 法政大教授

「転成仁語」より

反日デモによる暴力的行為は決して許されず、「愛国的」でもないということ、対立と紛争をエスカレートすることは、日本だけでなく中国にとってもプラスにならないということ、中

国の人々には十分理解してもらいたいものです。

外交問題については、このような興奮は百害あって一利なしです。まして、恫喝や力づくで問題を解決しようとするのは誤りであり、中国内での反日デモの暴徒化には強く抗議するものです。

政府は今後も暴力的な行動に対しては法に基づいて厳しく取り締まり、日本企業と日本人の安全確保に万全を期すよう中国側に求めていく必要があります。

尖閣諸島の領有権が日本にあることは歴史的にも国際法上も明らかです。この点について蒸し返そうとする中国政府の主張には正当性がありません。このことを、日本政府はもっと国際

社会にアピールするべきでしょう。

尖閣問題は

A S E A Nと連携を

水島 朝穂 早大教授

「今週の直言」より

尖閣諸島の問題は竹島とはちがう。

日本が実効支配をしているというだけではない。

1971年頃に海洋資源が発見されるや、突如として中国政府は尖閣諸島だけでなく、南沙諸島などでも周辺諸国に対して強い領土主張を展開しはじめた。

その意味で、尖閣問題は単なる「日中問題」ではなく、中国

紛争の一環と言えるだろう。

だからこそ、中国に対して「目には目を」（ナショナリズムにはナショナリズムの突出で）ではなく、A S E A N諸国などと連携して、冷静に対応していくことが求められるのである。

やっかいなことに、中国では、表現の自由をはじめとする市民の権利・自由が著しく制限されている。一党独裁と、世界有数の格差社会とが合体した国の場合、政治的・経済的矛盾はやがて党・政府に向かってくる。それを避けるためには、「矛盾のベント」が必要となる。それが「反日デモ」という形をとって、間欠泉のように吹き出しているのである。

中国が超大型台風だとす



時多発的

れば、その強風のパワーを
まともには受けると被害も大
きい。周辺諸国とともに風
の勢いを抑えることが重要
だろう。

『橋下維新と安倍
の連携は、ニッポ
ンを滅ぼす！』

「サンデー毎日」9月16日
「橋下維新」が政界を席
巻中だ。ラブコールの相手
として浮上したのは、自民
党の安倍晋三元首相。「憲
法改正」を狙う維新と安倍
氏のアブナイ関係とは。

橋下、安倍両氏には「危
険なおい」がつきまとう。
その最たるものが「憲法改
正」だろう。

新党「日本維新の会」の
基本政策「維新八策」で特

筆すべきは、現在、衆参各
院の「3分の2以上」になっ
ている憲法改正の要件を
「2分の1以上」へと緩和
し、憲法9条改正の是非を
問う国民投票の実施を盛り
込んだ点にある。

「今は憲法改正に向けた
“手続き”だけにとどまっ
ていますが、最終的な目標
は自衛隊の『国軍（自衛軍）
化』と集団的自衛権の行使
であることは明らかです」
（政治ジャーナリスト）

「安倍首相が誕生すれば
維新も政権入りし、これま
でにない『ファシズム政権』
が生まれる危険性と隣り合
わせになるでしょう。」

現状に不満を抱く若年層
と右派系パワーが大きな後
押しとなって“暴走政権”
ができる危険性は非常に高

い」

長引くデフレ不況に加え、
来年秋には消費増税も現実
味を帯びる。

そうした中、韓国、中国
による竹島、尖閣の問題。

鬱積した不平・不満がナ
シヨナリズムと結びつきや
すい世情に浮上した橋下・

安倍両氏の連携が、ブレ
キのない“暴走政権”を生
み出す。

これがニッポンを滅ぼし
かねない、という指摘だ。

（以上、最近の問題を巡り
目にした意見いくつかを
ご紹介させていただきました）

「憲法9条をまもる平和祭り」

日時：12月8日（土）午後
会場：中央公民館 第3・第4研修室、他
（入場無料）

広く市民の皆様の出演や、展示参加をお待
ちしています。実行委員も募集しています。

舞台催し物コーナー

楽器演奏、コーラス、手品、朗読、人形劇、
踊りなどパフォーマンス、その他、出演者・
出演グループを募集します。

作品展示コーナー

写真、書、陶器、工芸品、絵手紙、パッチ
ワーク、その他、いろんな趣味をお持ちの
皆様の作品を募集中

《ご連絡は事務局の者まで》

第 1 3 回 映 画 会 『ひまわり』

日時:10月11日(木) 午前10時～
会場:中央公民館3階「軽音楽室2」

1970年、イタリア、フランス、ソビエト
監 督:ヴィットリオ・デ・シーカ
出 演:マルチェロ・マストロヤンニ、
ソフィア・ローレン、リュドミ
ラ・サベリエワ、他

戦争によって引き裂かれた夫婦の運命
を描いた反戦映画の名作。一面に広がる
ヒマワリ畑が美しくも哀歓を誘います。

「ひまわり」 「トンマッコルへようこそ」



九条の会・尾張旭ニュース

原 稿 募 集

- ・内 容:九条や平和に少しでも関係
するものなら結構です。
- ・締 切 り:2012年11月5日(月)
- ・発 行:2012年11月15日(予定)
《送り先》

〒488-0011 東栄町4-4-4 筒井 洋

Tel.Fax:(0561)-54-6279

Eメール:hiroshi.tsutsui@nifty.com

第 1 4 回 映 画 会 『トンマッコルへ ようこそ』

日時:11月8日(木) 午前10時～
会場:中央公民館3階「軽音楽室2」

2005年、韓国で800万人と最多観客動員
数を記録。音楽を久石譲が担当。
監督:パク・クァンヒョン、出演:カン・
ヘジョン(助演女優賞受賞)など

朝鮮戦争のさ中、太白山脈の奥地、人々
が穏やかに暮らしているトンマッコル村
で南・北・米軍の兵士が偶然遭遇し…。

* 会場費カンパ100円をお願いします。

大江健三郎さんが講演!

「あいち九条の会」

2012 愛知県
民のつどい



日 時:11月3日(祝)

午後1時開演(12時開場)

会 場:名古屋市公会堂

地下鉄・JR「鶴舞」下車

講 演:大江健三郎「いま、なぜ
平和を語るのか?」

参加協力券:一般1000円、大学生・障
がい者500円 * 高校生以下は無料

参加協力券が必要な方は事務局まで

「九条の会・尾張旭」事務局発行 ホームページ=<http://owariasahi.quu.cc/html12/>
《連絡先》筒井 洋(54-6279) 澤田 徹二郎(54-0477) 高橋恵利子(54-7044)